

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 川崎市日本語指導等協力者勉強会

1 事業の趣旨・目的

川崎市の公立小学校、中学校には外国から来て日本語が十分理解できない児童、生徒が多く在籍している。そのような児童、生徒のために川崎市日本語指導等協力者が学校に派遣され日本語指導や学校での生活に困らないように支援している。

川崎市日本語指導等協力者には日本語能力を有する外国人である協力者も多く、児童、生徒と母語で対応でき心のケアに関しては十分にその力が発揮できているが日本語指導に関してはまだまだ研修が必要な状況にある。これからの多文化共生社会を考えると多様な人を受け入れその後の研修を重ねることによってより多くの方が多文化共生のためのスキルを身に付けることができると考える。そのためにもさらなる日本語指導の技術とそのスキルアップを図る必要がある。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
第1回 平成20年 11月28日	川崎市総合教育センター 会議室	池田恵子 古村睦美 斉木伸子 菅原雅枝 高橋悦子 田子はるみ 段村洋子 三宅裕子 村井直子	・研修のおおまかな内容 ・研修の日程 ・募集方法(チラシ作成)	・当事業の趣旨・目的に応じかつ必要と感じていた内容を盛り込んだ。 ・3ヶ月に6回の研修を行うため、開催場所の確保と協力者が参加しやすい日程を考えた。 ・チラシにはわかり易い表現を用い協力者全員に届くよう配布方法を検討した。
第2回 平成20年 12月17日	同上	同上 9名	・研修全6回の内容 ・各回の役割分担	・各回の内容に応じた会場の設定と準備する物の確認をし、受付、進行、書記、アンケート集計、写真等役割分担をした。

			・アンケートの内容	・参加者が意見・要望等記入しやすいようわかり易い表現を考えた。
第3回 平成21年 1月16日	同上	同上 9名	・グループワークの際の 分け方 ・第2回模擬授業の詳細	・参加者が積極的に発言できるよう、また出身国が偏らないようグループ分けをした。 ・開催場所が小学校で講師をそちらへ招くということもあり会場設定、時間の流れ、手順、準備物など確認。

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 川崎市日本語指導等協力者 外国人の協力者のための日本語指導法セミナー
- (2) 研修の目標 今回の養成講座では、川崎市の特徴である母語での対応の意義を確認し、日本語指導等協力者として共通の認識を有することを図る。また新規登録者にも「日本語指導等協力者」の意味を理解してもらうと共に外国人協力者の日本語指導技術レベルアップを図る。そのために日本語指導の講師を招き外国人の協力者にわかりやす

い研修を目標に多くの実践例や解説を学び指導法を身に付けていく。

(3) 受講者の総数 53 人

(4) 開催時間数(回数) 15 時間 (6 回)

(5) 参加対象者の要件

- ・ 川崎市日本語指導等協力者（外国人協力者および日本人協力者）
- ・ 当セミナーの趣旨を理解する人

(6) 受講者の募集方法

- ・ 協力者が派遣されている学校へ川崎市総合教育センターから学校間便を使って募集チラシと申込書を配布
- ・ 登録者に対しパソコンで募集（チラシ・申込書の添付）
- ・ 協力者の口コミによる募集 等



ぶんかちょういたくじぎょう
文化庁委託事業

にほんごしどうとうきょうりよくしゃ
日本語指導等協力者のための日本語指導セミナー

川崎で・こどもに・日本語を
教える

にほんごきょういく せんもんか
日本語教育の専門家

ひろせまり こせんせい も ぎじゅぎょう み
広瀬万里子先生の模擬授業が見られます

教え方がわかるよ!

みんな

あつまれ

来てね

にほんご しどう なや こま
日本語を指導していて、悩んだり困ったりしたことはありませんか？

いっしょ かんが
みんなで一緒に考えて、レベルアップしましょう。

み ひろせせんせい も ぎじゅぎょう も
なかなか見られない広瀬先生の模擬授業など、盛りだくさんのセミナーです。

みなさま とく しんじん かた さんか
皆様、特に新人の方はぜひご参加ください。

さん かもうしこみしよ
参加申込書

【日本語指導等協力者】

なまえ
【お名前

】

おてすうをおかけいたしますが、1月14日(水)までに、参加する研修に○をつけてFAX

で申し込みをお願いいたします。 この用紙でFAXしてください。

研修日程

	日にち	時間	場所	タイトル	出席○
1	1月23日(金)	2:00~4:30	センター	どんな日本語指導をしていますか？ <small>にほんごしどう</small>	
2	1月30日(金)	1:30~4:00	みやまえしょうがっこう 宮前小学校	ひろせせんせい じゆぎょう 広瀬先生の授業を見よう	
3	2月10日(火)	2:00~4:30	センター	しどう けいかく つく 指導の計画を作ってみよう	
4	2月20日(金)	2:00~4:30	センター	ぼご 母語をじょうずに使おう	
5	3月11日(水)	2:00~4:30	センター	ことばいがい もんだい ことば以外の問題：「あれ？」と思ったら	
6	3月19日(木)	2:00~4:30	センター	まとめ みんなでレベルアップを！	

かいいじょうしゅつせきしや しゅうりょうしょう
4回以上出席者には修了証を差しあげます！

かわさきしにほんごしどうとうきょうりよくしゃべんきょうかい しゅさい
川崎市日本語指導等協力者勉強会 主催

FAX 044-844-3727

川崎市総合教育センター カリキュラムセンター

佐藤公孝宛

(7) 研修会場 川崎市総合教育センター会議室
川崎市立宮前小学校 スタジオ

(8) 使用した教材・リソース
ひろこさんのたのしいにほんご
Japanese four Young People I・II・III
はじめよう日本語 初級 1・2
日本語の教え方ABC
イラスト

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
第1回 1月23日(金) 14:00～ 16:30	<どんな日本語指導をしていますか？> グループワーク ・自分の指導を振り返り流れ、教材、練習方法等で他の人との共通点と相違点を見つけ検討する。 ・模擬授業の予習	川崎市日本語指導巡回相談員、東京学芸大学付属国際中等教育学校講師 関東国際高等学校講師 菅原 雅枝	26名
第2回 1月30日(金) 13:30～ 16:00	<広瀬先生の模擬授業を見よう> ひろこさんのたのしいにほんご30課(形容詞)使用。学校生活に必要な日本語、児童との対応の仕方、授業を展開する際の注意点を学ぶ。	TIJ東京日本語研修所 所長 広瀬 万里子	29名
第3回 2月10日(火) 14:00～ 16:30	<指導計画を作ってみよう> グループワーク ・ひろこさん38課の指導計画(宿題)をもとにグループ毎に指導計画を完成させる。 ・授業の展開では児童の発想を重視し話題・場面・繰り返し練習の重要性を学ぶ。	TIJ東京日本語研修所 所長 広瀬 万里子	26名

第4回 2月20日(金) 14:00～ 16:30	<母語をじょうずに使おう> グループワーク ・母語をいつどんな状況で使っているかを話し合い日本語指導で効果的に使う方法を考える。	講師 菅原 雅枝	33名
第5回 3月11日(水) 14:00～ 16:30	<ことば以外の問題: 「あれ?」と思ったら> グループワーク ・体験を語り合いその後KJ法で多様な児童への対応を探る。 ・協力者は何をすればよいかを学ぶ。	元川崎市総合教育センター・特別支援教育センター 巡回指導員 重藤 根治子	33名
第6回 3月19日(木) 14:00～ 16:30	「まとめ。 みんなでレベルアップを！」 ・外国人協力者が自分の指導実践例を発表する。 ・「計画すること」と「記録すること」の重要性を理解する。 ・6回の研修を振りかえり学んだことと今後勉強したいことを考える。	講師 菅原 雅枝	22名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

各回ごと及び最終回のアンケートをまとめた。多く出た意見としては次のようなものがあった。

- ・多くの事例がわかり意見交換ができたのでよかった。
- ・日本語の先生の授業を見ることで自分の指導のヒントになるものを多くもらった。
- ・自分の指導法の振り返りができてよかった。
- ・日本人にとってマイナスかなと感じていたことが外国の方にとってはプラス面としてとらえていることがあることがわかった。
- ・国際教室での日本語クラスの授業の見学をさせていただきたい。
- ・日本語セミナー、研修会、勉強会の類を定期的にやってもらいたい。(複数意見あり)
- ・中国語が母語であるが、日本語指導者としての日本語を勉強するセミナーをお願いしたい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回は総合教育センターと日本語指導等協力者勉強会が協働で行った初めての研修会であった。日頃学びたいと自主的、自覚的に思うものと、派遣事業主体としてレベルアップをしてほしいと考える部分に照準をあてたものとした。準備期間が少なかったにも関わらず、多くの方の協力、参加を頂き前向きな研修ができたと考える。特に今回はお互いの話を聞くことにより自分の指導へのヒント、反省となるように経験によるグループ分けをし、勉強会メンバーが各グループに入り話し合いの進行に工夫をした点が評価できたと考える。また広瀬先生による模擬授業見学は多くの人に今後の各自の指導にヒントを与えることができた。それと同時に最近の日本語指導の中に入ってきている問題で言語以外の問題が潜む生徒に対する指導のヒントとなる特別支援教育専門で実際に川崎で仕事をされていた重籐先生の講座にも多くの評価を得た。また菅原先生の講座では『川崎市日本語指導等協力者の特殊な立場(母語のわかる指導者がいる)を生かした指導法』のアドバイスが多くの人の心に刻まれた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

川崎市の特徴であるが日本語の他にもう一つ言語ができれば日本語指導等協力者に応募可能である。そこに応募してきた多様な背景の人たちへの研修が課題となる。それを解消すべく川崎市日本語指導等協力者勉強会のメンバーが川崎市総合教育センターと協力をして実際に協力者の派遣の仕事を行う人に対する研修を行いスキルアップを試みている。多文化共生とはお互いの立場を理解して互いのすり合わせの細かな作業が必要となる。今回も日本人サイドにとって必要なことと外国人サイドにとって必要なことに関して同じ部分があり、また異なる部分があることがわかった。今後双方の意見を交換してお互いに高めあうことのできる研修の計画が必要と考える。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

学校に派遣する日本語指導等協力者のレベルアップを図ることで川崎市の小中学校での活躍が期待できる。またエスニックコミュニティの一員である協力者のレベルアップを図るということは、地域で生活している他のコミュニティの人たちに波及する効果は計り知れない。

(イ) 研修後の人材活用

学校に派遣する日本語指導等協力者として活用する。

(12) 今後の課題

母語、母国語の異なる人たち、日本人であるが日本語指導法のわからない人が共に学ぶ場をどのようにデザインしていくのかということは今後の課題となる。また日本語指導と教科の指導がどのような位置付にあるのかということを理解しながら指導していく方法を考える、母語を有効に利用して指導時間の短縮を図りながら本当に必要な指導内容の研究、カリキュラム開発が今後の課題として見えてきた。